

特 集

ベテラン研修会復活！ ～9年ぶりにニセコで開催～

広 報 部

4月8～10日の3日間、春の息吹が感じられるニセコグランひらふスキー場にて、久しぶりとなる「ベテラン研修会」略して「ベテ研」と呼ばれていた研修会が復活した。

参加資格に男子60歳、女子50歳以上の年齢制限があるこの研修会の歴史をひも解いてみると・・・

かつては、道連が主催する「高齢者指導員特別研修会」として、今は亡き、当時の栗林道連教育部長の発案でスタートしたものである。

第1回は昭和51年3月29～30日の2日間、ニセコモイワ国際スキー場で開催され、講師には柴田信一(道連副会長)、栗林薫(道連教育部長)、中川伊佐美(道連理事)の3氏があたり、約40名の参加があった。開催当時から大変好評で、期間を延ばしSAJ公認の研修会にしてほしいという要望が多くあり、第3回の昭和53年からSAJ研修会となった。第5回の昭和55年度から「超ベテラン特別研修会」と改称。

平成13年度から「特別指導員研修会」と改称され、14年度からは参加資格が男子50歳、女子40歳以上に変更された。

平成17年度(第32回)まで実施されたが、折からの経済不況、スキー人口の激減などにより、以後中止となっていたもので、今回9年ぶりに復活したものである。

第33回目を迎えた研修会当日は、好天にも恵まれ、本部となったニセコアルペンホテル前で13時から開会式が行われました。

会場に集まった参加者のいでたちは、とってお歳には見えない若々しさいっぱいのもお歳には見えない若々しさいっぱいのスキーヤー22人。平均年齢は70.8歳。まるで同窓会に

集まった仲間のような和気あいあいの雰囲気の中、三浦総務主任(道指協理事長)の司会進行でスタート。



開会式風景

まずは道連を代表して、吉田英一副会長が「自分の経験を生かした技量と風格のある滑りをしたい。決して実力以上の滑りをしないように」とユーモアたっぷりの挨拶で笑いを取り、研修会責任者挨拶では、松本道連教育本部長が「低迷するスキー界を皆さんの力で、盛りたてて欲しい」と激励。協力団体挨拶では、藤島北海道スキー指導者協会(道指協)会長から今回の研修会を支援・協力することになった経緯についての説明がありました。

続いて中野主任講師から2名の講師紹介があり、A班池田麻里ナショナルデモ、B班江島絵美SAJデモが紹介され、全員で記念撮影の後、雲ひとつない青空のもと、二班に分かれて実技研修が開始されました。

眼前にそびえる羊蹄山やアンヌプリをバックに颯爽と滑る姿は、年齢を感じさせない見事な



全員で記念撮影

滑りを披露。今回の最高齢は89歳のO氏を筆頭に80代が3人、70代が8人、60代が11人という年齢構成となりました。当初、30人の参加申し込みがありましたが、事務手続きや勘違いによる不備が3人、けがや突然の入院などで5人の方が欠席となりました。

16時からの理論研修では、中野今朝四郎主任講師の自己紹介ビデオから入るといって和やかムードでスタート。研修会テーマについても懇切丁寧な説明が印象的でした。



アンヌプリをバックにA班の皆さん

2日目は9時30分実技開始、研修テーマのカリキュラムを学習しながら11時30分午前の研修

を修了。昼食をはさんで12時30分から午後の研修を開始、各班とも2日間で研修した基本的な技術をベースに、発展・応用技術へとベタ雪をものともせず果敢にチャレンジ。



羊蹄山をバックにB班の皆さん

下界を見下ろす斜面での小休止では、変貌したひらふの街並みを見ながら、講師も分からない昔話に花が咲き、笑顔の絶えない研修会となりました。

2日目の夕食は懇親会となり、吉田道連副会長の挨拶でスタート。年齢を感じさせない元気な参加者の姿に触れ「85歳以上、90歳以上の参加者6人で単独班を作る研修会をやってみた

い。これが本当の生涯スポーツと言えるのではないか。明日の閉会式までガンバッテください」と、参加者に檄を飛ばし、藤島道指協会長の音頭で乾杯！



藤島道指協会長の音頭で乾杯！

宴もたけなわとなったところで、参加者全員の自己紹介タイムが始まりました。A班のトップを切って小野田先生から自分のスキー史などが披露され、締めは池田デモが。B班のトップは川瀬先生でスタート、締めは江島デモが名寄スキー場のPRを兼ねて「来場した方には無料レッスンのサービスがある」という話題も提供、会場にはご夫婦で参加の方などもいて、笑顔いっぱい、和気あいあいの懇親会となりました。



参加者最高齢の
小野田先生がスピーチ

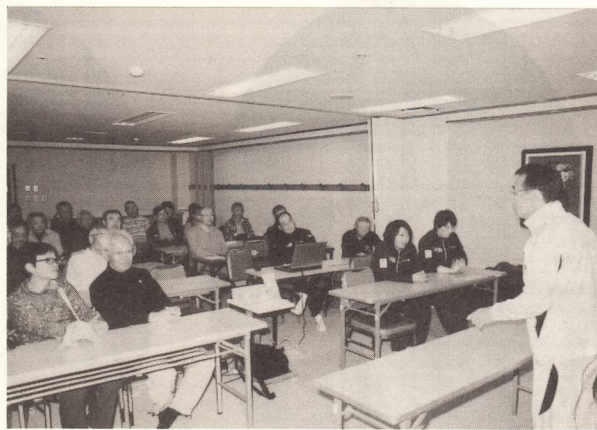


破顔一笑！
江島絵美デモ

懇親会の締めは、苫小牧連盟の境悦子さんのシーハイルの音頭で、全員声高らかにこぶしを突き上げ、翌日の健闘を誓い合いました。

3日目は早朝からの雨のため、実技研修が中止となり、急きょ理論研修に変更となりました。

理論Ⅰの講師は、道連副会長の吉田英一氏が「市野理論13年間に見る二つの視点と吉田的一考察」と題して、指導法・技術論について自分の解釈と解説をユーモアを交えて楽しい講演を披露し、会場は笑顔のあふれる研修会となりました。理論Ⅱは「技術戦2014」のタイトル通り、3月に行われた全日本技術戦の最新映像をCDで研修し、11時終了。ただちに閉会式が行われました。



吉田副会長の講演風景

閉会式は三浦総務主任の司会進行で開始され、先ず、吉田副会長が3日間参加者の皆さんが元気でケガ無く無事に終了した喜びを伝えた後、「懇親会は研修会の神髄であり、昔の研修会のように口角泡を飛ばして、議論したスキーの財産として、残して行って欲しいもの」と述べ、自己紹介の中で70代の方が80代の先輩たちの元気な様子を見て、まだまだ頑張ろうと「元氣と勇氣をもらった」という一節に触れ、「私は青年である」という気持ちを心に持って、これからもがんばっていただきたい」と挨拶。

続いて来賓あいさつの後、今研修会の協力団体として、藤島道指協会長から関係者各位に対し謝辞が述べられました。

最後に、松本道連教育本部長から「皆さんの頑張りに、元氣と勇氣をいただいた研修会でし

た」と講評をいただき、参加指導者を代表して札幌の小野田正實氏（89歳）が元気いっぱいなシーハイルを三唱し、三日間の研修会の幕を下ろしました。今回の研修会では、関係者全員での記念撮影や各班ごとの記念写真もプレゼントされ、参加者の皆さんからは大好評で、来年も参加したいというリクエストが寄せられるなど協力団体の道指協としても手ごたえを感じた研

修会となりました。

9年振りに復活したベテラン研修会は、大好評で終了しましたが、支援・協力団体として中心的役割を担った北海道スキー指導者協会が、今後もこの研修会をさらに発展・普及させ「生涯スポーツ」としての価値を高めていく必要があることを実感する研修会でした。ご協力いただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

研修会スナップ

開会式



道連 吉田副会長挨拶



松本教育本部長挨拶



道指協 藤島会長挨拶



中野主任講師から講師紹介
中・A班池田デモ、右・B班江島デモ



司会進行 三浦総務主任